

# 千葉県音楽祭に出演



千葉県音楽祭のステージリハーサル

平成二十三年十一月二十三日(水)、第四十六回千葉県音楽祭が、君津市民文化ホールにおいて開催され、ちばマスタートラキエストラは市原フィルハーモニー管弦楽団と合同で出演しました。

当日は、大高義人氏の指揮により、「魔弾の射手」序曲、ラデツキー行進曲を演奏しました。「お姉さんと一緒に歌いましょう」のコーナーでは、松本やすこ氏の歌唱「サンタルチア」の伴奏を担当しました。また、東日本大震災で今なお苦しんでいる方々に届けようとして、「里の秋」、「上を向いて歩こう」、「ふるさと」を全体合唱し、オーケストラの演奏と歌声がホール一杯に響きました。

合同演奏には、県立木更津高等学校吹奏楽部員が一部加わりました。次はそのトランペットパートの生徒の感想です。

「オーケストラと一緒に演奏することは滅多にない機会なので、大変貴重な経験になりました。」



# 信篤公民館文化祭に参加



十月十五日(土)午後、信篤公民館文化祭参加企画として、体育館で演奏会を開催しました。

指揮は齋藤純一郎氏で、「魔弾の射手」序曲、「田園」より一、二、五楽章、「くるみ割り人形」より「花のワルツ」、「ふるさと」を演奏しました。

体育館には用意しておいた座席が足りなくなるほどの方々にお越しいただきました。次にご紹介するのは会場でお伺いしたお客様のご感想です。

「リハーサルの途中ででしたが、見学させていただき、子どもが本物のオーケストラを近くで見ることができ、喜んでいました。」

「よく知っていた曲ばかりなので、楽しく聞くことができました。」

「このように身近に生のオーケストラで名曲を聴くことが出来る機会はとても貴重だと思います。」

# 海外における音楽体験

「ニューヨーク・モック演奏会」に参加して

力を訪れ、現地の音楽を体験してきました。次はその貴重な音楽紀行です。



木佐貫 秀彌 (第二バイオリン)

九月十一日夜、「リバイサイド教会・大聖堂」において田久保裕一氏指揮による『東日本大震災復興支援&九・一一米国多発テロから十年』日本・アメリカ合同チャリティコンサート「モーツァルト「レクイエム」」が開催されました。

小生は、演奏経験を持つ「合唱・テノールパート」で参加しました。街中が厳戒態勢の中でのリハーサルを経て、音楽ホール並みの素晴らしい音場空間における意義深いコンサートとなりました。

指揮者・田久保氏の「熱い思い」と高い集中



力に、「日米合同の「メモリアルオーケストラ・合唱団」、「ソリスト陣」が見事に反応し、大成功を収めました。」

モーツァルト「レクイエム」の演奏が終わり、会場内に漂う祈りの余韻・沈黙後、満場の「スタンディング・オベーション」をいただきました。

海外公演とは云え、初体験・初光景ながら感涙を

禁じ得ない素晴らしい体験をしました。

本場アルゼンチンタンゴを聴いて



佐久間 英機 (クラリネット)

アルゼンチンタンゴ発祥の地ブエノスアイレスでタンゴ上演の老舗 El Viejo Almacen で初めて聴く本場のタンゴに酔いしれました。六重奏編成の各奏者とも高い演奏技術を持ち、スピード感溢れる清々しさとリズム感溢れる躍動感に満ち、一糸乱れぬアンサンブルが感動的でした。

ヴァイオリンの美しく甘い香気漂う演奏、タンゴの華と言われるバンドネオンの中低音のふくよかな音、センチメント豊かで温かみのある零れ落ちる哀愁おびたメロディ、ピアノの刻む小気味



アルゼンチンタンゴの音楽とダンスが融合し心に触れた一夜でした。